

SQL*Plus

クイック・リファレンス

リリース 9.2

2002 年 7 月

部品番号 : J06277-01

ORACLE®

SQL*Plus クイック・リファレンス, リリース 9.2

部品番号 : J06277-01

原本名 : SQL*Plus Quick Reference Release 9.2

原本部品番号 : A90843-01

Copyright © 1996, 2002 Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

SQL*Plus クイック・リファレンス

このマニュアルについて	2
コマンド構文の表記規則	3
iSQL*Plus の起動	4
iSQL*Plus サーバーの統計レポートの実行	5
iSQL*Plus のナビゲーション	5
iSQL*Plus の設定項目	6
iSQL*Plus の「作業領域」画面のボタン	6
SQL*Plus の起動および終了	7
データベースの起動および停止	8
コマンドの入力および実行	9
SQL、SQL*Plus および PL/SQL コマンドの操作	10
問合せ結果の書式設定	15
データベースへのアクセス	20
その他	21

SQL*Plus クイック・リファレンス

このマニュアルについて

このマニュアルでは、iSQL*Plus のボタンおよびアイコン、iSQL*Plus および SQL*Plus のコマンド構文について説明します。それぞれのコマンドの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

このマニュアルでは、次の内容について説明します。

- コマンド構文の表記規則
- iSQL*Plus の起動
- iSQL*Plus サーバーの統計レポートの実行
- iSQL*Plus のナビゲーション
- iSQL*Plus の設定項目
- iSQL*Plus の「作業領域」画面のボタン
- SQL*Plus の起動および終了
- データベースの起動および停止
- コマンドの入力および実行
- SQL、SQL*Plus および PL/SQL コマンドの操作
- 問合せ結果の書式設定
- データベースへのアクセス
- その他

コマンド構文の表記規則

このマニュアルで使用するコマンド構文の表記規則を次に示します。

コマンド、用語および句

機能	例	説明
大文字	<code>BTITLE</code>	表示されているとおりに入力します。大文字である必要はありません。
小文字	<code>column</code>	句の値を表します。適切な値に置き換えます。
特定の意味を持つ語句	<code>c</code>	1 文字。
	<code>char</code>	一重引用符で囲まれた CHAR 型の値、または CHAR 型の値での表記。
	<code>d</code> または <code>e</code>	日付、または DATE 型の値での表記。
	<code>expr</code>	不特定の表記。
	<code>m</code> または <code>n</code>	数値、または NUMBER 型の値での表記。
	<code>text</code>	CHAR 型の定数（一重引用符がある場合とない場合があります）。
	<code>variable</code>	ユーザー変数（テキストが別の変数タイプを指定しない場合）。

記号

機能	例	説明
縦線		任意または必須の構文要素を区切ります。
大カッコ	[ON OFF]	任意に選択する 1 つ以上の項目を囲みます。2 つの項目が縦線で区切られている場合は、いずれかの項目を入力します。大カッコまたは縦線は入力しないでください。
中カッコ	{ON OFF}	必ず選択する項目を囲みます。いずれかの項目を入力します。中カッコまたは縦線は入力しないでください。
下線	{ON <u>OFF</u> }	デフォルト値を表します。何も入力しなかった場合、SQL*Plus は下線が付いた値を受け入れます。
省略記号	<code>n ...</code>	項目の繰返しを表します。

iSQL*Plus の起動

iSQL*Plus を表示するには、Web ブラウザで次の URL を入力します。

`http://machine_name.domain:port/isqlplus[?UserOpts]`

または、データベース管理者（DBA）権限を持つ iSQL*Plus を起動するには、次の URL を入力します。

`http://machine_name.domain/isqlplusdba[?DBAOpts]`

UserOpts の構文は、次のとおりです。

`UserLogin|Script|UserLogin&Script`

DBAOpts の構文は、次のとおりです。

`DBALogin|Script|DBALogin&Script`

UserLogin の構文は、次のとおりです。

`userid=username[/password] [@connect_identifier]`

DBALogin の構文は、次のとおりです。

`userid={username[/password] [@connect_identifier] | / } AS {SYSDBA | SYSOPER}`

Script の構文は、次のとおりです。

`script=text [&type={url|text}] [&action={execute|load}] [&variable=value. . .]`

例：

iSQL*Plus を起動するには、次のように入力します。

`http://machine_name.domain:port/isqlplus`

DBA 権限を持つ iSQL*Plus を起動するには、次のように入力します。

`http://machine_name.domain:port/isqlplusdba`










iSQL*Plus サーバーの統計レポートの実行

iSQL*Plus サーバーの統計レポートを実行するには、Web ブラウザで次の URL を入力します。

```
http://machine_name.domain:port/isqlplusdba?statistics={active|full}  
[&refresh=number]
```

iSQL*Plus のナビゲーション

iSQL*Plus でのナビゲートに使用するアイコンを次に示します。

アイコン	用途
	ログアウト
	新規セッション
	履歴
	設定項目
	ヘルプ
	次へ
	戻る
	目次
	索引

iSQL*Plus の設定項目

iSQL*Plus で設定できる項目を次に示します。

ナビゲーション・パス	用途
作業領域 > 設定項目 > インタフェース・オプションの設定	入力領域のサイズを変更します。 出力先を変更します。 履歴リストに残るスクリプトの数を変更します。
作業領域 > 設定項目 > システム変数の設定	システム変数の現在の設定を表示します。 iSQL*Plus で使用するシステム変数を設定または変更します。
作業領域 > 設定項目 > パスワードの変更	Oracle9i データベースのパスワードを変更します。

iSQL*Plus の「作業領域」画面のボタン

iSQL*Plus の「作業領域」画面のボタンを次に示します。

ボタン	用途
参照 ...	ローカル・スクリプトを検索して、入力領域にロードします。
スクリプトのロード	ローカル・スクリプトを入力領域にロードします。
実行	入力領域の内容を実行します。
スクリプトの保存	入力領域の内容をローカル・ファイルに保存します。
スクリーン消去	入力領域および出力領域の内容を消去します。
取消	実行中のスクリプトを中断します。

SQL*Plus の起動および終了

次のコマンドを使用して、SQL*Plus へのログインおよびログアウトを行います。

```
SQLPLUS [[option] [logon] [start]]
```

option の構文は、次のとおりです。

```
-H[ELP] | -V[ERSION]  
| [ [-L[OGON]] [-M[ARKUP] "mark_options" [-R[ESTRICT] {1|2|3}] [-S[ILENT]] ] ]
```

mark_options の構文は、次のとおりです。

```
HTML [ON|OFF] [HEAD text] [BODY text] [TABLE text]  
[ENTIMAP {ON|OFF}] [SPOOL {ON|OFF}] [PRE[FORMAT] {ON|OFF}]
```

logon の構文は、次のとおりです。

```
{username[/password] [@connect_identifier] | /} [AS {SYSOPER|SYSDBA}]  
| /NOLOG
```

注意： AS {SYSOPER|SYSDBA} オプションを指定してログインする場合、多くのオペレーティング・システムでは、logon 句を引用符で囲む必要があります。

start の構文は、次のとおりです。

```
@{url/file_name[.ext]} [arg ...]
```

```
{EXIT|QUIT} [SUCCESS|FAILURE|WARNING|n|variable  
|:BindVariable] [COMMIT|ROLLBACK]
```

保留中の変更をすべてコミットまたはロールバックし、Oracle をログアウトして SQL*Plus を終了し、制御をオペレーティング・システムに戻します。

iSQL*Plus では、保留中の変更をすべてコミットまたはロールバックし、現行の iSQL*Plus スクリプトの処理を停止して、入力領域に戻ります。iSQL*Plus では、「ログアウト」ボタンをクリックして Oracle をログアウトします。

データベースの起動および停止

データベースの起動および停止には、DBA 権限が必要です。

STARTUP *options* | *migrate_options*

options の構文は、次のとおりです。

```
[FORCE] [RESTRICT] [PFILE=filename] [QUIET] [ MOUNT [dbname] |  
[ OPEN [open_options] [dbname] ] |  
NOMOUNT ]
```

open_options の構文は、次のとおりです。

```
READ {ONLY | WRITE [RECOVER]} | RECOVER
```

migrate_options の構文は、次のとおりです。

```
[PFILE=filename] MIGRATE [QUIET]
```

いくつかのオプションを付けて Oracle インスタンスを起動します。データベースのマウントおよびオープンが実行されます。

SHUTDOWN [ABORT | IMMEDIATE | NORMAL | TRANSACTIONAL [LOCAL]]

現在実行中の Oracle インスタンスを停止します。データベースのクローズおよびディスマウントが実行されます。

コマンドの入力および実行

次のコマンドを使用して、SQL コマンドおよび PL/SQL ブロックの実行と経過時間に関する情報を収集します。

/ (スラッシュ)

SQL バッファに格納されている、最後に実行された SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックを実行します。SQL*Plus コマンドラインのコマンド・プロンプトまたは行番号プロンプトでスラッシュ (/) を使用するか、iSQL*Plus の入力領域でスラッシュ (/) を使用します。コマンドは表示されません。

EXEC[UTE] *statement*

1 つの PL/SQL 文またはストアド・プロシージャを実行します。

R [UN]

SQL バッファに格納されている、最後に実行された SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックを表示して実行します。

TIMI[NG] [START *text*|SHOW|STOP]

経過時間をタイミング・データとして記録します。あるいは、現行のタイマーの名前およびタイミング・データ、またはアクティブなタイマーの数を表示します。

次のコマンドを使用して、ヘルプ・システムにアクセスします。

HELP [*topic*]

コマンドラインのヘルプ・システムにアクセスします。HELP INDEX を入力して、項目のリストを表示します。

iSQL*Plus で iSQL*Plus ヘルプを表示する場合は、「ヘルプ」ボタンをクリックします。

次のコマンドを使用して、ホスト・オペレーティング・システムのコマンドを実行します。

HO[ST] [*command*]

SQL*Plus を終了せずに、ホスト・オペレーティング・システムのコマンドを実行します。

オペレーティング・システムによっては、「\$」(VMS の場合)、「!」(UNIX の場合)、「\$」(Windows の場合)などの文字が HOST のかわりに使用できます。詳細は、各プラットフォームの Oracle インストレーション・ガイドおよび管理者リファレンスを参照してください。

iSQL*Plus では、HOST を使用できません。

SQL、SQL*Plus および PL/SQL コマンドの操作

次のコマンドを使用して、SQL コマンドおよび PL/SQL ブロックを編集します。

A [PPEND] *text*

指定されたテキストを、SQL バッファ内の現在の行の末尾に追加します。前にある文字と *text* を空白で区切るには、APPEND と *text* の間に空白を 2 つ入力します。セミコロンで終わるテキストを追加する場合は、コマンドの最後にセミコロンを 2 つ入力します (SQL*Plus では、1 つのセミコロンはコマンドの終わりを意味します)。

iSQL*Plus では、APPEND を使用できません。

C[HANGE] *sepchar old [sepchar [new [sepchar]]]*

SQL バッファの現在の行で、指定したテキストと最初に一致した項目を変更します。*sepchar* には、スラッシュ (/) や感嘆符 (!) などの英数字以外の文字が使用できます。CHANGE と最初の *sepchar* の間の空白は省略できます。

iSQL*Plus では、CHANGE を使用できません。

DEL [*n*|*n m*|*n **|*n LAST*|*|* *n*|* LAST|LAST]

SQL バッファ内の行を 1 行以上削除します。アスタリスク (*) は現在の行を意味します。DEL と *n*、または DEL と * の間の空白は省略できますが、DEL と LAST の間の空白は省略できません。バッファ内の現在の行を削除するには、句を指定せずに DEL と入力します。

iSQL*Plus では、DEL を使用できません。

I [NPUT] [*text*]

SQL バッファの現在の行の後に、1 行以上のテキストを追加します。

iSQL*Plus では、INPUT を使用できません。

L[IST] [*n*|*n m*|*n **|*n LAST*|*|* *n*|* LAST|LAST]

SQL バッファに格納されている、最後に実行された 1 行以上の SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックを表示します。アスタリスク (*) は現在の行を意味します。LIST と *n*、または LIST と * の間の空白は省略できますが、LIST と LAST の間の空白は省略できません。すべての行を表示するときは、句を指定せずに LIST と入力します。

次のコマンドを使用して、スクリプトを実行します。

@ { url | file_name[.ext] } [arg ...]

指定されたスクリプト内の SQL 文を実行します。スクリプトは、ローカル・ファイル・システムまたは Web サーバーから呼び出すことができます。通常どおり、値はスクリプト変数に代入できます。

iSQL*Plus でスクリプトを呼び出すことができるのは Web サーバーからのみです。

@@ { url | file_name[.ext] } [arg ...]

指定されたスクリプト内の SQL 文を実行します。このコマンドは、@（アットマーク）コマンドとほぼ同じです。呼出しスクリプトと同じパスまたは url で指定されたスクリプトを検索する機能があるため、このコマンドはネストしたスクリプトを実行する場合に便利です。

iSQL*Plus では、url の書式のみを使用できます。

STA[RT] { url|file_name[.ext] } [arg ...]

url は、次のいずれかの書式の HTTP および FTP プロトコルです。

{http|ftp}://machine_name.domain/script.sql

指定されたスクリプト内の SQL 文を実行します。スクリプトは、ローカル・ファイル・システムまたは Web サーバーから呼び出すことができます。通常どおり、値はスクリプト変数に代入できます。

iSQL*Plus でスクリプトを呼び出すことができるのは Web サーバーからのみです。

次のコマンドを使用して、スクリプトを作成および変更します。

ED[IT] [file_name[.ext]]

ホスト・オペレーティング・システムのテキスト・エディタを起動します。テキスト・エディタには、指定したファイルの内容または SQL バッファの内容が表示されます。バッファの内容を編集するときは、ファイル名を省略します。

iSQL*Plus では、EDIT を使用できません。

GET file_name[.ext] [LIS[T] | NOL[IST]]

ホスト・オペレーティング・システムのファイルから SQL バッファに、SQL 文または PL/SQL ブロックをロードします。

iSQL*Plus では、GET を使用できません。iSQL*Plus では、「スクリプトのロード」ボタンをクリックして、入力領域にスクリプトをロードします。

REM[ARK]

スクリプト内でコメントを開始します。REMARK コマンドは、コメント行の先頭に指定する必要があります。コメントはその行の終わりで終了します（1 行にコメントとコマンドの両方は記述できません）。SQL*Plus では、コメントはコマンドとして解釈されません。

SAV[E] *file_name*[.ext] [CRE[ATE] | REP[LACE] | APP[END]]

SQL バッファの内容をホスト・オペレーティング・システムのスクリプトに保存します。

iSQL*Plus では、SAVE を使用できません。iSQL*Plus では、「スクリプトの保存」ボタンをクリックして、入力領域の内容をスクリプトに保存します。

STORE {SET} *file_name*[.ext] [CRE[ATE] | REP[LACE] | APP[END]]

現行の SQL*Plus 環境の属性をホスト・オペレーティング・システムのスクリプトに保存します。

iSQL*Plus では、STORE を使用できません。

**WHENEVER OSERROR {EXIT [SUCCESS | FAILURE
| *n* | *variable* | :BindVariable] [COMMIT | ROLLBACK] | CONTINUE
[COMMIT | ROLLBACK | NONE]}**

オペレーティング・システム・エラー（ファイルの書き込みエラーなど）が発生した場合に、指定された処置（デフォルトでは、SQL*Plus の終了）を実行します。

iSQL*Plus でオペレーティング・システム・エラーが発生すると、指定された処置（デフォルトでは、現行のスクリプトの終了）を実行し、入力領域に戻ります。

**WHENEVER SQLERROR {EXIT [SUCCESS | FAILURE | WARNING
| *n* | *variable* | :BindVariable] [COMMIT | ROLLBACK] | CONTINUE
[COMMIT | ROLLBACK | NONE] }**

SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックでエラーが発生した場合に、指定された処置（デフォルトでは、SQL*Plus の終了）を実行します。

iSQL*Plus で SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックでエラーが発生すると、指定された処置（デフォルトでは、現行のスクリプトの終了）を実行し、入力領域に戻ります。

次のコマンドを使用して、対話形式のコマンドを記述します。

```
ACC[EPT] variable [NUM[BER] | CHAR|DATE] [FOR[MAT] format]
[DEF[AULT] default] [PROMPT text|NOPR[OMPT]] [HIDE]
```

入力された行を読み込み、指定されたユーザー変数に行の内容を格納します。

iSQL*Plus では、ACCEPT を使用できません。

```
DEF[INE] [variable] | [variable = text]
```

ユーザー変数を指定して CHAR 型の値を割り当てるか、1 つまたはすべての変数の値および変数タイプを表示します。

```
PAU[SE] [text]
```

指定されたテキストを表示して、[Enter] キーを押すまで一時停止します。

iSQL*Plus では、PAUSE を使用できません。

```
PRO[MPT] [text]
```

指定されたメッセージまたは空白行をユーザーの画面に送信します。

```
UNDEF[INE] variable ...
```

指定された 1 つ以上のユーザー変数を削除します。削除するユーザー変数には、DEFINE コマンドによって明示的に定義された変数、または START コマンドの引数によって暗黙的に定義された変数を指定できます。

次のコマンドを使用して、バインド変数を作成または表示します。

```
PRI[NT] [variable ...]
```

バインド変数の現在の値を表示します。

```
VAR[IABLE] [variable {NUMBER|CHAR|CHAR (n [CHAR|BYTE])|NCHAR
|NCHAR (n)|VARCHAR2 (n [CHAR|BYTE])|
NVARCHAR2 (n)|CLOB|NCLOB|REFCURSOR}]
```

PL/SQL で参照可能なバインド変数を宣言するか、1 つまたはすべての変数の現在の表示特性を表示します。

次の記号を使用して、スクリプト内で使用する置換変数およびパラメータを作成します。

&n

START コマンドで起動するスクリプトのパラメータを指定します。スクリプト名に続いて入力した値は、START コマンドによって次のように代入されます。スクリプト名に続いて入力した最初の値が &1 に代入され、2 番目の値が &2 に代入され、以降同様に続きます。

&user_variable, &&user_variable

SQL または SQL*Plus コマンドで使用する置換変数を示します。SQL*Plus は、検出した各置換変数に、指定されたユーザー変数の値を代入します。ユーザー変数が定義されていない場合、SQL*Plus は & 変数を検出するたびに値の入力をユーザーに要求します。&& 変数の場合は、最初に検出したときのみ値の入力をユーザーに要求します。

. (ピリオド)

置換変数に続く文字が変数名の一部と解釈される可能性がある場合、ピリオド (.) によって置換変数名の末尾を示します。

問合せ結果の書式設定

次のコマンドを使用して、問合せ結果の書式設定、保存および表示を行います。

ATTRIBUTE [*type_name.attribute_name* [*option...*]]

オブジェクト・タイプ列の指定した属性の表示属性を設定します。あるいは、1つまたはすべての属性の現在の表示属性を表示します。*option* には、次のいずれかの句を指定します。

```
ALI [AS] alias          LIKE {type_name.attribute_name|alias}
CLE [AR]                ON|OFF
FOR [MAT] format
```

BRE[**AK**] [**ON** *report_element* [*action* [*action*]]] ...

レポート内のどこで変更が発生するか、および実行する書式設定に関する処置（たとえば、列の値が変更されるたびに1行をスキップするなど）を指定します。現在の BREAK の定義を表示するには、句を指定せずに BREAK と入力します。

report_element の構文は、次のとおりです。

```
{column|expr|ROW|REPORT}
```

action の構文は、次のとおりです。

```
[SKI [P] n] [SKI [P]] PAGE] [NODUP [LICATES] |DUP [LICATES]]
```

iSQL*Plus では、SKIP オプションを使用できません。

BTI[**TLE**] [*printspec* [*text*|*variable*] ...] | [**ON**|**OFF**]

タイトルをレポートの各ページの末尾に配置して、書式設定します。または、BTITLE の現在の定義を表示します。*printspec* には、次のいずれかの句を指定します。

```
COL n                LE [FT]                BOLD
S [KIP] [n]         CE [NTER]              FORMAT text
TAB n                R [IGHT]
```

CL[EAR] *option* ...

指定されたオプションの現在の値または設定を、リセットまたは消去します。*option* には、次のいずれかの句を指定します。

BRE[AKS]	COMP[UTES]	TIMI[NG]
BUFF[ER]	SCR[EEN]	
COL[UMNS]	SQL	

iSQL*Plus では、CLEAR SCREEN オプションを使用できません。

COL[UMN] [{*column*|*expr*} [*option* ...]]

指定された列に対して、列ヘッダーのテキスト、列ヘッダーの位置、データ書式、列データの折返しなどの表示属性を指定します。

また、1 つまたはすべての列の現行の表示属性也表示します。

option には、次のいずれかの句を指定します。

```

ALI[AS] alias
CLE[AR]
ENIMAP {ON|OFF}
FFOLD_A[FTER]
FOLD_B[EFORE]
FOR[MAT] format
HEA[DING] text
JUS[TIFY] {L[EFT] | C[ENTER] | C[ENTRE] | R[IGHT]}
LIKE {expr|alias}
NEWL[INE]
NEW_V[ALUE] variable
NOPRI[NT] | PRI[NT]
NUL[L] text
OLD_V[ALUE] variable
ON|OFF
WRA[PPED] | WOR[D_WRAPPED] | TRU[NCATED]

```

列の表示書式を設定するには、*format* 要素に列の表示書式を指定して、COLUMN [{*column* |*expr*} FORMAT *format*] と入力します。

NUMBER 列の表示書式を変更するには、FORMAT の後に、次に示すいずれかの要素を指定します。

要素	例	説明
9	9999	戻される桁数を9の個数によって指定します。先行ゼロは、空白として表示されます。0（ゼロ）は、0の値として表示されます。
0	0999 9990	指定された位置に、先行ゼロまたは値としての0を表示します。
\$	\$9999	値の前にドル記号を表示します。
B	B9999	書式モデルに0が指定されているかどうかにかかわらず、指定された位置に、先行ゼロまたは値としての0を空白として表示します。
MI	9999MI	負の値の後に、マイナス記号 (-) を表示します。正の値の場合は、値の後に空白を表示します。
S	S9999	指定された位置に、正の値の場合はプラス記号 (+)、負の値の場合はマイナス記号 (-) を表示します。
PR	9999PR	負の値を山カッコ (<>) で囲んで表示します。正の値の場合は、値の前後に空白を表示します。
D	99D99	指定された位置に、数値の整数部分と小数部分を区切る区切り記号を表示します。
G	9G999	指定された位置に、桁グループ・セパレータを表示します。
C	C999	指定された位置に、ISO 通貨記号を表示します。
L	L999	指定された位置に、各国通貨記号を表示します。
, (カンマ)	9,999	指定された位置に、カンマを表示します。
. (ピリオド)	99.99	指定された位置に、数値の整数部分と小数部分を区切るピリオド（小数点）を表示します。
V	999V99	値に 10^n を乗算します。 n は V の後の9の値です。
EEEE	9.999EEEE	値を科学表記法に従って表示します（指定するときは、必ず E を正確に4つ入力します）。
RN または rn	RN	大文字または小文字のローマ数字を表示します。1～3999 までの整数を値として指定できます。
DATE	DATE	MM/DD/YY の書式の日付を表示します。ユリウス暦を表す NUMBER 型の列の書式設定に使用されます。

```
COMP[UTE] [function [LAB[EL] text] ... OF {expr|column|alias} ...ON
{expr|column|alias|REPORT|ROW} ...]
```

様々な標準的な計算方法で、選択された列のサブセットに関する集計明細を計算して表示します。また、COMPUTE のすべての定義を表示します。次の表に有効な関数を示します。NUMBER 以外の関数は、NULL 値に対して使用できません。COMPUTE 関数は、必ず AVG、COUNT、MINIMUM、MAXIMUM、NUMBER、SUM、STD、VARIANCE の順に実行されます。

関数	計算結果	適用できるデータ型
AVG	NULL 以外の値の平均値	NUMBER
COU[NT]	NULL 以外の値の数	すべてのデータ型
MIN[IMUM]	最小値	NUMBER、CHAR、NCHAR、VARCHAR2 (VARCHAR)、NVARCHAR2 (NCHAR VARYING)
MAX[IMUM]	最大値	NUMBER、CHAR、NCHAR、VARCHAR2 (VARCHAR)、NVARCHAR2 (NCHAR VARYING)
NUM[BER]	行の数	すべてのデータ型
SUM	NULL 以外の値の合計	NUMBER
STD	NULL 以外の値の標準偏差	NUMBER
VAR[iance]	NULL 以外の値の平方偏差	NUMBER

```
REPF[OOTER] [PAGE] [printspec [text|variable] ...] | [ON|OFF]
```

レポートの末尾にフッターを配置して、書式設定します。または、REPFOOTER の現在の定義を表示します。printspec には、次のいずれかの句を指定します。

COL n	LE [FT]	BOLD
S [KIP] [n]	CE [NTER]	FORMAT text
TAB n	R [IGHT]	

```
REPH[EADER] [PAGE] [printspec [text|variable] ...] | [ON|OFF]
```

レポートの先頭にヘッダーを配置して、書式設定します。または、REPHEADER の現在の定義を表示します。printspec には、次のいずれかの句を指定します。

COL n	LE [FT]	BOLD
S [KIP] [n]	CE [NTER]	FORMAT text
TAB n	R [IGHT]	

SPO[OL] [filename.ext] |OFF|OUT]

問合せ結果をオペレーティング・システムのファイルに保存します。オプションが指定された場合、保存されたファイルがプリンタに送信されます。OFF が指定されると、スプールを停止します。OUT が指定されると、スプールを停止して、ファイルをホスト・コンピュータの標準（デフォルト）のプリンタに送信します。スプールの現在の状態を表示するときは、句を指定しないで SPOOL と入力します。ファイル拡張子がない場合のデフォルトの拡張子は、.lst または .lis です。

iSQL*Plus では、SPOOL を使用できません。iSQL*Plus では、設定項目の設定を使用して、ファイルに出力します。

TTI[TL] [printspec [text|variable] ...] | [ON|OFF]

指定されたタイトルをレポートの各ページの先頭に配置して、書式設定します。または、TTITLE の現在の定義を表示します。TTITLE コマンドの後に、一重引用符で囲まれた 1 つの語句または文字列が続く場合のみ、旧形式の TTITLE が使用されます。printspec には、次のいずれかの句を指定します。

COL <i>n</i>	LE [FT]	BOLD
S [KIP] [<i>n</i>]	CE [NTER]	FORMAT <i>text</i>
TAB <i>n</i>	R [IGHT]	

データベースへのアクセス

次のコマンドを使用して、異なるデータベース上の表との間でデータのアクセスおよびコピーを行います。

```
CONN[ECT] [{logon/}] [AS {SYSOPER|SYSDBA}]]
```

logon の構文は、次のとおりです。

```
username[/password] [@connect_identifier]
```

指定されたユーザー名で Oracle に接続します。*connect_identifier* を省略した場合は、デフォルトのデータベースに接続されます。*username* または *password* を指定しないと、入力するように求められます。CONNECT の後にスラッシュ (/) を入力すると、デフォルト (OPS\$) のログオンが接続に使用されます。

iSQL*Plus では、パスワードを指定しなかった場合でも、入力を求めるプロンプトが表示されないため、CONNECT コマンドでは、必ずユーザー名とパスワードを指定する必要があります。

DISC[ONNECT]

データベースへの保留中の変更をコミットして、現在のユーザーを Oracle からログアウトします。ただし、SQL*Plus は終了しません。SQL*Plus のコマンドラインで EXIT または QUIT を使用して Oracle からログアウトし、制御をホスト・オペレーティング・システムに戻します。

iSQL*Plus では、「ログアウト」ボタンをクリックして Oracle からログアウトします。

```
COPY {FROM database | TO database | FROM database TO database}  
{APPEND|CREATE|INSERT|REPLACE} destination_table[(column, column,  
column, ...)] USING query
```

database の構文は、次のとおりです。

```
username[/password] @connect_identifier
```

問合せから、ローカルまたはリモートのデータベースにある表にデータをコピーします。APPEND、CREATE、INSERT または REPLACE を指定すると、コピー先の表に既存のデータが存在する場合の処理方法を設定できます。USING *query* によって、コピー元の表が識別され、コピーする行および列を決定できます。COPY では、CHAR、DATE、LONG、NUMBER および VARCHAR2 データ型を使用できます。

PASSW[ORD] [username]

パスワードを変更できます。入力デバイスには表示されません。

iSQL*Plus では、PASSWORD を使用できません。iSQL*Plus では、「パスワード」画面を使用してパスワードを変更します。

その他

ARCHIVE LOG {LIST|STOP}|{START|NEXT|ALL|integer}[TO destination]

オンライン REDO ログの自動アーカイブの起動または停止、指定された REDO ログの手動での（明示的な）アーカイブ、または REDO ログ・ファイルに関する情報の表示を行います。

DESC[RIBE] {[schema.]object[@connect_identifier]}

表、ビューまたはシノニムに関する列定義、またはファンクションまたはプロシージャに関する仕様を表示します。

RECOVER {general | managed | END BACKUP}

general の構文は、次のとおりです。

```
[AUTOMATIC] [FROM location]
{ {full_database_recovery | partial_database_recovery | LOGFILE filename}
[ {TEST | ALLOW integer CORRUPTION } [TEST | ALLOW integer CORRUPTION ]... ]
| CONTINUE [DEFAULT] | CANCEL }
```

full_database_recovery の構文は、次のとおりです。

```
[STANDBY] DATABASE
[ {UNTIL {CANCEL | TIME date | CHANGE integer} | USING BACKUP CONTROLFILE}
[UNTIL {CANCEL | TIME date | CHANGE integer} | USING BACKUP CONTROLFILE]... ]
```

partial_database_recovery の構文は、次のとおりです。

```
{TABLESPACE tablespace [, tablespace]... | DATAFILE datafilename [, datafilename]...
| STANDBY
{TABLESPACE tablespace [, tablespace]... | DATAFILE datafilename [,
datafilename]... }
UNTIL [CONSISTENT] [WITH] CONTROLFILE }
```

managed の構文は、次のとおりです。

```
MANAGED STANDBY DATABASE
[ {NODELAY | [TIMEOUT] integer | CANCEL [IMMEDIATE] [NOWAIT] }
| [DISCONNECT [FROM SESSION] ] [FINISH [NOWAIT] ] ]
```

1 つ以上の表領域またはデータ・ファイル、あるいはデータベース全体のメディア・リカバリを実行します。

iSQL*Plus では、RECOVER を使用するには、システム変数 AUTORECOVERY を ON に設定する必要があります。ネットワークのタイムアウトなどが原因で長時間実行される DBA 操作（RECOVER など）には、コマンドラインの SQL*Plus を使用することをお勧めします。

SET system_variable value

システム変数を設定して、現行のセッションに関する SQL*Plus 環境設定（たとえば、データの表示幅の設定、HTML 形式の設定、列ヘッダーの印刷の設定、1 ページ当たりの行数の設定など）を変更します。

iSQL*Plus では、「システム変数」画面でもシステム変数を設定できます。

次に示すシステム変数の後に、値を指定して入力します。

```
SET APPI [NFO] {ON|OFF|text}
SET ARRAY [SIZE] {15|n}
SET AUTO [COMMIT] {ON|OFF|IMMEDIATE|n}
SET AUTOP [RINT] {ON|OFF}
SET AUTORECOVERY {ON|OFF}
SET AUTOT [RACE] {ON|OFF|TRACE [ONLY]} [EXP [LAIN]] [STAT [ISTICS]]
SET BLO [CKTERMINATOR] {_ |c}
SET CMDS [EP] {; |c|ON|OFF}
SET COLSEP {_ |text}
SET COM [PATIBILITY] {V7|V8|NATIVE}
SET CON [CAT] {_ |c|ON|OFF}
SET COPYC [OMMIT] {0|n}
SET COPYTYPECHECK {ON|OFF}
SET DEF [INE] {'&' |c|ON|OFF}
SET DESCRIBE [DEPTH {1|n|ALL}] [LINENUM {ON|OFF}] [INDENT {ON|OFF}]
SET ECHO {ON|OFF}
*SET EDITF [ILE] file_name[.ext]
SET EMB [EDED] {ON|OFF}
SET ESC [APE] {\ |c|ON|OFF}
SET FEED [BACK] {6|n|ON|OFF}
SET FLAGGER {OFF|ENTRY|INTERMED [IATE]|FULL}
*SET FLU [SH] {ON|OFF}
SET HEA [DING] {ON|OFF}
SET HEADS [EP] {_ |c|ON|OFF}
SET INSTANCE [instance_path|LOCAL]
SET LIN [ESIZE] {80|n} (default is 150 in iSQL*Plus)
SET LOBOF [FSET] {n|1}
SET LOGSOURCE [pathname]
SET LONG {80|n}
SET LONGC [HUNKSIZE] {80|n}
SET MARK [UP] HTML [ON|OFF] [HEAD text] [BODY text] [TABLE text]
[ENIMAP {ON|OFF}] [SPOOL {ON|OFF}] [PRE [FORMAT] {ON|OFF}]
*SET NEWP [AGE] {1|n|NONE}
SET NULL text
SET NUMF [ORMAT] format
SET NUM [WIDTH] {10|n}
SET PAGES [IZE] {24|n}
*SET PAU [SE] {ON|OFF|text}
SET RECSEP {WR|APPED|EA [CH]|OFF}
```

```

SET RECSEPCHAR { _ | c }
SET SERVEROUT [PUT] { ON | OFF } [SIZE n] [FOR [MAT] { WRA [PPED]
    | WOR [D_WAPPED] | TRU [NCATED] }}]
*SET SHIFT [INOUT] { VIS [IBLE] | INV [ISIBLE] }
*SET SHOW [MODE] { ON | OFF }
*SET SQLBL [ANKLINES] { ON | OFF }
SET SQLC [ASE] { MIX [ED] | LO [WER] | UP [PER] }
*SET SQLCO [NTINUE] { _ | text }
*SET SQLN [UMBER] { ON | OFF }
SET SQLPLUSCOMPAT [IBILITY] { x.y[.z] }
*SET SQLPRE [FIX] { # | c }
*SET SQLP [ROMPT] { SQL> | text }
SET SOLT [ERMINATOR] { i | c | ON | OFF }
*SET SUF [FIX] { SQL | text }
*SET TAB { ON | OFF }
*SET TERM [OUT] { ON | OFF }
*SET TI [ME] { ON | OFF }
SET TIMI [NG] { ON | OFF }
*SET TRIM [OUT] { ON | OFF }
*SET TRIMS [POOL] { ON | OFF }
SET UND [ERLINE] { _ | c | ON | OFF }
SET VER [IFY] { ON | OFF }
SET WRA [P] { ON | OFF }

```

アスタリスク (*) は、SET オプションが iSQL*Plus でサポートされていないことを示します。

SHO [W] [option]

SQL*Plus のシステム変数の値または SQL*Plus 環境を表示します。system_variable には、SET コマンドで設定したシステム変数を入力します。option には、次の語または句のいずれかを指定します。

```

system_variable
ALL
BTI [TLE]
ERR [ORS] [ { FUNCTION | PROCEDURE | PACKAGE | PACKAGE BODY | TRIGGER
    | VIEW | TYPE | TYPE BODY | DIMENSION | JAVA CLASS } [schema.]name]
LNO
PARAMETERS [parameter_name]
PNO
REL [EASE]
REPF [OOTER]
REPH [EADER]
SGA
SPOO [L] (Not available in iSQL*Plus)
SQLCODE
TTI [TLE]
USER

```

